



# からしだね

2017年11月号  
(532号)

キリストの受難 カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸 神父・中村克徳 神父

協力司祭：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL : 072-751-2400 FAX : 072-753-4624

URL(ホームページ) : <http://www.ne.jp/asahi/catholic/ikeda/church/>



9月18日大阪カテドラル聖マリア大聖堂での北摂地区大会。  
中央は前田万葉大司教、その右は畠基幸神父。 撮影は石戸。

## 本号の記事の主題など

- |  |                           |
|--|---------------------------|
| 畠 基幸神父による巻頭言……………2-3                             | 晴天に恵まれた大掃除の日……………6        |
| 「死者の月、『み名が聖とされますように<br>(Hallowed be thy name) 』」 | 大人の日曜学校だより……………7          |
| 大阪カテドラルで13名が堅信の秘跡……4-5                           | 南アフリカの子供たちに『クリスマス・カード』……7 |
|  | 「みんなの談話室」のコーナーを新設……………8   |

## 巻頭言

## 死者の月、「み名が聖とされますように (Hallowed be thy name)」

畠 基幸 C.P.

11月は死者の月、諸聖人の祝日から始まります。毎日の典礼に参加する人を除けば、日常生活で「聖人」のことを考えることはほとんどないほどなじみが薄くなりました。これは、今年の始めにも感じたことで、ユスト高山右近の列福のときに、福者とか聖人とは誰で何者なのかと考える機会でしたが、侍大名がどうして聖人なのかと反発する向きもあり、教会も様変わり、「聖人」に無関心な層も多かったように感じました。ちょうど500年前、ルターの教会改革が始まった頃、宗教改革者たちの指導で聖人への崇敬は否定されました。現代のカトリック者は意外とプロテスタント的な信仰感覚を持っているのかもしれませんが。

カトリック教会の典礼暦として諸聖人が祝われたのは、アンティオキアでの聖霊降臨後の最初の主日で4世紀頃だったようです。11月1日に移行したのは、諸説ありますが、8世紀前半聖グレゴリオ3世が、サン・ペトロ大聖堂の中の小聖堂に使徒とすべての殉教者と聖人たちのための小聖堂を建立し、その小聖堂の祝別の日が11月1日だったという由來説があります。ところで、古代に聖霊降臨後の最初の主日だったというのは、初期の聖人はすべて殉教者だったということに関連するでしょう。呪われた者の十字架の死を神の愛の救いの業であると誰が信じるでしょうか。聖霊降臨によって誕生した教会は、イエスの十字架の死と復活にこそ神の愛の証しであることを命にかけて証しました。迫害時代の教会では殉教者のことを「聖人」と呼ぶ慣わしがあったのです。「マルティリオン(証し)」のことを日本のキリシタンは「マルチリヨ」と呼び、殉教者を「マルチル」と呼びました。初代教会の殉教者とキリシタンの殉教者は同じマルチルです。しかし、迫害時代が終わり、キリスト教がローマ帝国

内で国教化されると「殉教」は別の意味を担うようになりました。信者がキリストに倣う生活によって神の福音を「証し」した人を聖人と呼ぶようになったのです。その列聖への基準は厳しく、その生涯と教えが教会のメッセージと合致すると公に認められた人のみが聖人として列聖されるのです。この聖人を「証聖者」と言われます。「殉教者」は血による証し人であり、「証聖者」は血によらない信仰による従順の証し人なのです。目に見えない神の愛の目に見える証し人なのです。天からの示しとして福者に一つ、聖人に二つの奇跡が必要ともっともらしく聞きますが、もともとの定義から言えば、必要がないように思います。列聖される聖人と列聖されない聖人とがあり、同じく神の救いの業、神の愛の生きた証し人の群れが諸聖人です。

高山右近が日本でキリストを生きる困難を感じていた同時代、たくさんの聖人たちがキリスト教世界で誕生しました。16世紀は聖人の世紀とも言われるのです。それは、免償状でルターが糾弾した有限の罰の償いの免除を教会建築の献金で免除されることは教皇権の乱用であると批判したことを、トレント公会議で改め、その後60年の間に、七つの慈善の償いの業を具体的なカリスマの形の修道会が多数創立されてカトリック教会は分裂以前よりも大きく発展しました。同じく第二バチカン公会議後60年を経て、見渡せばカリスマの賛美の祈りの集いを原点にする共同体が雨後の竹の子のように誕生しています。現代社会でキリストを証しするために、血をながさないけれども、同じ信仰の兄弟姉妹がともに集まり、祈り学ぶことによって一人ひとり小さく力がなくても大きな愛の業をなすことができるように思います。同じ地球に住む人々のために日本の残りの少数の信者がパン種のように

福音を膨らませる使命を「聖」とされることをビジョン化する必要があるでしょう。

ところで、プロテスタント教会では現在でも10月31日を教会改革の日として祝います。カトリック教会では、トレント公会議(1545年～1563年)を経て、グレゴリオ暦(1582年)の導入に合わせて典礼暦も整え、11月1日を守るべき祝日(現在は一般暦の祭日)として決めました。翌日が死者の日(998年以来の伝統で14世紀から典礼暦に加えられ)として大切にされました。ウェブ(ウィキペディア)の解説で知ったことですが、諸聖人が「万聖節」、死者の日が「万霊節」と言うこともあるようです。そして、「ハローウィン」の祭りに関しては、英語で「Solemnity of All Saints」と書く場合もあるのですが「All Hallows」と言う場合もあります。「hallow(ハロー)」は、「聖とする、聖化する」意味で、「み名が聖とされますように(Hallowed be thy name)」のように使われます。ですが、最近日本でコスプレ文化の流行に仮装行列やパーティを楽しむ「ハローウィン」の日は、元は、アイルランドやケルト系の「ハロー・イブ(Hallows Eve)」というキリスト教以前の精霊を祭る夜を真似て精霊たちに仮装してお化けの大会を地で行くような遊びといえるのです。まったくキリスト教と縁がないことなので、ピューリタン(清教徒)の教会ではまったく行わないのですが、米国でも戦後、商業ベースに乗って流行したようです。この「ハロー・イブ」の訛った言葉の「ハローウィン」は、だから諸聖人の前晩(All Hallows Eve)のお祭りとは縁のないも

のなのですが、カトリック国では国民の祝日の前日であり、寒さに向う季節の変わり目、日本のお盆の季節のようにヨーロッパの北国では家族が集まり、子供たちの遊びに興じる思い出の日になったのです。スウェーデンでは、諸聖人の日が、死者のために祈る日、ポーランドでは墓参りの日、ポルトガルとフランスでは親族の死者に花をささげる日と国によって違うけれども、まさにお盆の休みなのです。

さて、わたしたちの教会では、死者の月として亡くなった方々のために祈ります。死者のためにささげるミサを通して、ミサのうちに、死者が聖とされ、永遠の喜びのうちに、死者との絆を回復し深めることができる時です。み名が聖とされみ国が来ますようにキリストの愛と慈しみの証し人である諸聖人(そして日本の殉教者たち)のとりなしを願ひましょう。



…山も谷も経験している



…理解と共感を示す

### 11月のガラスケースのことば

だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。  
人の怒りは神の義を実現しないからです

ヤコブ 1・19-20

## 大阪カテドラルで13名が堅信の秘跡を受けました

北摂地区大会は『福音の証の力を願うー大阪教区再宣教150周年に向けたー』というテーマで9月18日に大阪カテドラル聖マリア大聖堂で開かれました。その地区大会において、前田万葉大司教により北摂地区8教会から集まった62名が堅信の秘跡を授かりました。池田教会関係者のは前回より3名多い13名でした。

広報委員会の要請に応じて、青少年育成委員会副委員長はお二人の司祭、堅信希望者、代親、青少年育成委員会が一体となって歩んだ堅信準備期間と堅信式当日の様子、そして、受堅者へのはなむけの言葉を綴られました。堅信式の写真は石戸さんが撮影したものです。

### 6月に始まった堅信準備から堅信式まで

堅信式が行われることが分かってから、まず青少年育成委員会が始めたことは、堅信希望者を探すことでした。堅信を受けることができる年齢に達している青少年、またはその保護者にコンタクトを取るのですが、しばらく教会に来られていない方を探し、連絡を取るのには難しい作業でした。いろいろな資料から該当者を探して手紙を出したり、実際に家を見に行ってくれた委員さんもあります。でもそのおかげで再び教会に来て下さった方が何名もおられ、懐かしい再会ができました。こうして堅信候補者のリストを作り、堅信勉強会の案内を送り、青少年は中村神父様、大人は畠神父様による勉強会が始まりました。青少年の勉強会に参加してみると、神父様の真剣なお話は緊張感があり、青少年も真剣に勉強しているのが伝わってきました。同時に堅信申し込み書を書いてもらい、名簿を作る作業が始まりました。また青少年育成委員会のメンバーは子供が堅信候補者だったり堅信者の代親をする人も多く、公私共に堅信に関わりました。

9月3日には北摂地区青少年委員会中高生交流会が池田教会であり、堅信をテーマに青少年が分かち合いました。実際には高槻教会の清川神父様と池田教会の中村神父様討論会に参加し、その後班に分かれて交流をしました。その時に、皆の堅信への思いを記した奉納物を制作し、それは実際堅信式にて、掲示、奉納されました。

堅信式当日は台風が過ぎ去った後の爽やかな一日でしたが、警報が朝6時に残っていないか、ぎりぎりまで心配しました。堅信式の準備に多くの方が携わって下さり、当日もたくさんの池田教会の方々が駆けつけて下さいました。ミサの侍者は池田教会の中高生の子供達が担当しました。前田大司教様はお説教でご自分の作られた俳句で堅信を祝福して下さいました。堅信式にて池田教会の信者さんの名前が呼ばれるのを誇らしい気持ちで聞いたのを覚えています。

こうして、無事13名の方が堅信を受けることができました。素晴らしいお恵みに感謝し、大司教様を始め、神父様方、堅信者の保護者、代親の方々、準備に携わって下さった多くの方々にお礼申し上げます。堅信式に関わることができたことは青少年育成委員会にとって大きな実りとなりました。

### 受堅された皆さんへ

堅信おめでとうございます。素晴らしい秘跡を受けられた皆さんはそのお恵みに大きな喜びを感じていらっしゃると思います。堅信式が終わり、これから長く続く信仰生活の新しい一歩を踏み出した瞬間です。何十年と続く今後の日々は、しかしながら、必ずしも順風満帆というわけにはいきません。時には、キリストへの信仰に疑いを持つ時期がやってくるかもしれません。そんな時、カテドラルで行われた荘厳で美しかった堅信式を思い出して下さい。秘跡を受けた時の感動を回想して下さい。堅信のお恵みがいつも皆さんと共にありますように。

(青少年育成委員会 副委員長)

前田万葉大司教から堅信を受けた方と代親、13組



愛されていることを  
喜ぶ

## 晴天に恵まれた大掃除の日

大掃除が9月24日の第4主日のミサ後、教会の大掃除が行われました。ミサが終わると、それぞれが自分の持ち場としているところへ、さっと散っていきます。外回りも、聖堂、小聖堂、カール記念館もすべて、高齢者から子供たちに至るまでが総がかりで取り組み、たんねんに掃除しました。思わぬところが汚れているのを見つけたり、意外に時間がかかったり。高所や力仕事は男

性が率先して引き受け、隅々に至るまでの掃除や、いつのまにか積みあがった不用品の処理は女性が担当します。言わず語らずの見事な連携により、教会は今年もまた美しくなりました。(大掃除担当の委員の皆様、お疲れさまでした。)



聖堂にガラス窓から  
光が入る！

中庭を散策できる！

寝具からほこりを出し、  
光と空気を入れる

カール記念館  
入口の欄間から

カール記念館2階  
会議室の窓から



## 「大人の日曜学校」だより

### 10月 福音の分かち合い

「見かけたものはだれも婚姻に連れて来なさい」  
(マタイ22:1~14)

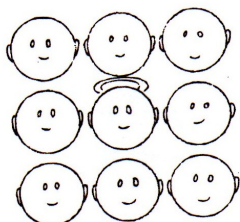
今日も最後の祈りをした後、深いやすらぎを感じた。

今日の福音は、決してわかりやすい箇所ではなかった。7名の参加者とともにここにひびいた箇所を読み、体験などを話し合った。「今週こんな腹が立つことがあったのよ」と話す参加者。祈りを今必要としている人のこと。その分かち合いを通して神様が私たちに語りかけてくださる何かを感じる。教会に来てどうしてもいろいろな打ち合わせの話し合いが多くなってしまふ。

こんな集まりがもっとふえたらと思う。

次回は、一度参加してみませんか？

研修委員会



…チームワークが上手

## 11月の教会カレンダーへの追加と変更

11月10日 「福音書を学ぶ会」14:00～16:00.

11月11日 「ラウダート・シを読み合わせ会」  
9:30～11:30

11月19日 大人の日曜学校・研修委員会  
(26日から変更)

11月26日 待降節黙想会 講師は梅原神父様

## 待降節黙想会のご案内

11月26日に待降節の黙想会があります。指導されるのは梅原 彰 神父様(夙川教会)です。

第一講話(ミサ中)と第二講話(ミサ後)が予定されています。ゆるしの秘跡もあります。

研修委員会

## 南アフリカの子供たちに

### 『クリスマス・カード』を送りました。

久保

皆様に作っていただいたクリスマス・カードを、お菓子と一緒に南アフリカへ向けて発送しました。その際の会計報告をさせていただきます。皆様の御協力に、心から感謝いたします。

国際郵便代 4,600円

お菓子代 950円

合計 5,550円

今後とも、息長くご支援お祈り下さるようお願いいたします。

## 「みんなの談話室」のコーナーを 新設します

気軽に投稿できる「みんなの談話室」のコーナーを設けます。おしゃべりコーナーのからしだね版です。信仰や教会に関すること、それ以外の個人的なこと、趣味のことなど、思いつくままにお書きください。日頃の思いを短い文章で伝え合い、信者を結ぶ系の一つにしたいと思います。

広報委員会



…理解と共感を示す



…山も谷も経験している

## 宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

### ■日帰り黙想会

11月16日(木) 10:00 ~ 15:30

11月17日(金) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束神父



各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

## 編集後記

フランシスコ教皇の回勅「ラウダート・シ」が邦訳されたので幾度も読んでみました。地球上での日常生活を送るの必要なヒントが豊富です。例えば、毎日出会う他者、草木・動物、岩や石、土との交わり方に間違いを犯し、神を忘れ、自然を培うことを怠り、自然環境の破壊に無頓着になり、他者に無関心になり、社会環境の棄損に鈍感になってきた、つまり、3者との関係を築いてきませんでしたと指摘されています。更に、人が自身の内にある神的なもの、他者や自然物と似た部分を持つにも拘わらずにそれらの存在を意識せず、それらとの関係を調整しようとしなければ、意識と棲む家である肉体との関係は外部の神・他者・自然との関係と同様に不調和に陥るとフランシスコ教皇は記しています。

私は自身の肉体を対象化して制御しようとするのに、エネルギーや壊れ行く肉体を補う自然にある物質を補い、顔・手・足の筋繊維の緊張・弛緩を命じて運動を起こすだけです。一方、全身にある感覚神経細胞とシナプスで接合する神経細胞からなる神経システムが多様な物質を体内に配送する循環器系や種々の臓器を絶え間なく制御しているのを私自身は殆んど感知していません。

我が意識とは無関係に見えるが、半ば自律的に命を維持しているこの無言の部分が神の意志によって作られ、私の小さな意志の棲む家になっているのに、この回勅のお陰で気づかされたのです。

インマヌエル